

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070701760
法人名	社会福祉法人 倫尚会
事業所名	グループホーム倫尚園
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区馬場山東三丁目11番1号 (電 話) 093 - 619 - 0230

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	2007年9月28日	評価確定日	10月26日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算	6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000円		その他の経費(月額)	(光熱費) 10,000円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 69 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木病院 / 青山中央外科病院 / 住田病院 / 小柳歯科病院 / かじわら歯科医
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム倫尚園は、鉄筋コンクリート造り4階建ての1階に位置している。食堂などは広々としており、談話コーナーなどもあり、仲間同士でくつろぐ空間など、配慮が行き届いている。職員は、入居者一人ひとりを尊重した「暮らしの場」としての雰囲気づくりに工夫を凝らしている。また他のグループホームとの合同勉強会を主催し、「認知症」ケアについての知識や技術を深めることに余念がない。地域に対しては、「認知症」に対する理解を深めるための講演活動を行うなど、事業所内に止まることなく活動の幅を広げている。更に、日々の記録やマニュアルについても、新人職員にも対応できるよう詳細に整備され、職員間での情報の共有化、サービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で家庭的な雰囲気づくりが課題になっていたため、今まで使用していた食器のうち茶碗や湯のみを誕生日のプレゼントとして、少しずつ個人の食器として揃えてきた。また、配膳などトレイに入れて一度に出していたのを、家庭のように副菜一つひとつ配膳するように工夫したり、食事でもできるだけ、ホームで入居者と作るように改善を行った。また、活動プログラムを多様に準備し「その人らしく」あるための支援に力を入れ取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 「評価」を日頃のケアが「慣れによりマンネリ化していないか」を振り返る機会と捉え、事業所内で協力して取り組んでいる。また、「外部評価」の結果を事業所内で閲覧可能な状態にしているだけでなく、入居者の家族に送っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回実施している。サービス内容の説明や(個人情報に配慮した上で)個別ケアの経過報告を行っている。参加者より意見の聴取を行い、提案も積極的に取り入れている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時や行事の際には、必ず職員は家族と会話をする機会を持ち、生活状況を説明をしている。また、金銭管理についても、電話や書面、面会時に報告している。介護サービス相談派遣事業の訪問日程のポスターを貼り、外部の方へも意見を表せるように努めている。苦情については、苦情相談マニュアルにそって誠意をもって対応することを契約書に定めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「老後の暮らしと認知症について」と題して、地域の人々を対象とした講演会などを実施している。また、地域の依頼には、積極的に応じるなど、「認知症」に対する理解を高めるための活動を積極的に行っている。施設の行事の際には、地域の方々へ案内状を出し、参加を募るなど、地元の方々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を「個人」として尊重する理念の内容を独自で作上げ、理念として4項目を掲げている。理念を実現すべく4つの基本姿勢も明確に定めている。	○	平成18年の法改正に伴い、「地域密着型サービス」としての理念の内容が求められるようになった。趣旨を踏まえた文言・内容の追加を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の届く場所に理念を掲示し、日常的に意識出来るよう努めている。職員間では、入居者の事例と理念をリンクさせることを意識し、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「老後の暮らしと認知症について」と題して、地域の人々を対象とした講演会などを実施している。地域の講演依頼には、積極的に応じるなど、「認知症」に対する理解を高めるための活動を積極的に行っている。施設の行事などには地域の方々に案内状を出し、参加を募る等、地元の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「評価」を日頃のケアが「慣れによりマンネリ化していないか」を振り返る機会と捉え、事業所内で協力して取り組んでいる。「外部評価」の結果を事業所内で閲覧可能な状態にしているだけでなく、入居者の家族に送っている。「オンブズマン・パーソン」による定期的な訪問・チェックを受けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。サービス内容の説明や、(個人情報に配慮した上で)個別ケアの経過報告を行なっている。参加者より意見の聴取を行い、提案も積極的に取り入れている。	○	「サービス内容の説明」や「個別ケアの経過報告」に止まることなく、地域との交流を趣旨とする企画を提案するなど、会議を活用し、地域に積極的に働きかけることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員派遣事業や認知症関連の研修受け入れなど、積極的に市との連携を図っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	「権利擁護事業」や「成年後見制度」についての該当者はいないが、潜在するニーズに備え、内外の研修を通して、学ぶ機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や行事の際には、生活状況などの報告や金銭管理の確認を行なっている。併せて、担当職員のコメント入りの通信を不定期ではあるが発行している。職員の異動については、今後、入居者や家族に対して報告が求められる。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用して、意見や相談・苦情の収集に努めている。「私たちも一緒に考えていきますよ」をモットーに、家族の悩みを真摯に受けとめるよう努めている。介護サービス相談派遣事業の訪問日程のポスターを掲示し、直接職員へ言い難い方への対応方法も明示し、意見や苦情など言っていただけの環境づくりに努めてい	○	職員へ直接言えない苦情など、潜在する不満やニーズを収集・検討・反映する仕組みを期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった場合は、馴染みの職員とペアを組みことにより、入居者のダメージを最小限にするように努めている。	○	「認知症ケア」及び「グループホーム」の特性をふまえた職員の異動を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員募集・採用については、法人事務局が担当している。事業所内については、職員間での同意のもと、勤務変更などが柔軟に対応できる勤務体制を整備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	内部研修を実施している。ケース会議などを通じて、人権に関して意識を高めるように努めている。	○	研修のフィードバックを徹底し、全職員への「人権意識」の浸透を期待したい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修計画を立て実施している。管理者から与えられたテーマを、職員各自が勉強し、他事業所(約20のグループホーム)との合同学習会の場で発表するなど、サービスの質の向上及び職員の自助努力を促す取り組みを積極的に実施している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	約20のグループホームとの合同学習会を主催し、職員発表の場としての活用や困難事例の検討など、同業者との交流・ネットワークづくりなど、サービスの質の向上に主体的に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を勧めるようにし、家族と相談しながら、入居者の環境の変化へのダメージを最小限にするように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員を「介護者」ではなく、「暮らしのパートナー」と位置づけ、「共に生活する」ことを意識し、日々の掃除や洗濯など、ささいなことでもできることは必ず一緒に行なうように努めている。しかし、一方で、職員は制服を着用している。	○	「介護者ではなく、暮らしのパートナー。共に生活する」との方針であるならば、制服の着用については、再考を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には、本人・家族に「生活歴チャート」の記入を依頼し、入居者一人ひとりの暮らしや思い・「その人らしさ」の追求に役立てている。	○	「生活歴」の把握に努め、介護計画への一層の反映を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの際、本人・家族・現場スタッフ、必要に応じて医療関係者の意見を参考にした介護計画を作成している。入居者一人ひとりの留意事項や緊急時における対応などを、新人職員が見ても分かるレベルで詳細に記載された「個別介護手順書」が完備されている。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて、ケア内容の変更は行なっているが、介護計画が後追い(追いついていない)とのこと。一方、毎日記録する「個別経過記録」には、記録ページと「介護計画書」が対で確認出来るよう工夫されており、日々、ケアのあり方を必ず確認・検証出来る仕組みが確立されている。	○	日頃のケア内容を検証する意味でも「介護計画」の見直し・作成を、適切な時期に実施することを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の希望にそった外出・受診支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を必ず確認すると共に、入居者・家族の希望や必要に応じて、かかりつけ医の変更にも対応している。受診時には家族と共に同行している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	自己評価では「重度化・終末期に向けた方針が明確ではなく、医療との連携も万全とは言えない」とのことであるが、職員は、医療との連携の必要性を十分に理解していると共に、入居者・家族の意向・悩みに傾聴しながら、「重度化・終末期」の問題と真摯に向き合い、その対応方法を模索している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「プライバシー」については、理念でも定めており、その尊重と保護については、共通認識が出来ている。「個人情報の取り扱い」についても誓約書を交わしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールを作らず、入居者のその日の希望に応じて、1日の過ごし方が決まる方針で、入居者のペースを尊重した支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が、準備・片づけを一緒に行い、入居者ができる範囲で各々の役割を「義務」でなく、自然とこなしていただくように支援している。入居者と職員がテレビを観ながら、和気あいあいと食事を楽しんでいる様子から、普段の暮らしが伺えた。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっておらず、入居者の希望に応じて、午前・午後・夜間、いずれも入浴可能となっている。仲の良い入居者同士で入浴でき、入浴の時間を楽しんでいる。ひのき風呂が心地良い雰囲気を出していた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの希望と状態をもとに、カラオケ・裁縫・おやつ作りなど、39項目からなる創作活動・レクリエーションなど多彩な趣味の取り組みがあり、楽しく潤いのある暮らしの実現に努めている。	○	畑仕事を希望する入居者が数名いるとのことであったので、広い敷地を活用して、ニーズの実現を期待したい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に入居者の希望に応じて、散歩や買物・ドライブなどを行い、(入居者に)屋内ばかりの生活が続き、ストレスがたまらないように工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠はしていない。玄関の自動ドアは、外側は自動であるが、内側は中からスイッチを押さないと開かない。その仕組みを理解している者のみについての「自動ドア」となっている。	○	玄関の「自動ドア」については、職員もその弊害を十分に理解している為、非常時の対応も踏まえ、何らかの工夫を期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設全体として、定期的に避難訓練を実施している。必要に応じて、地域の協力を得ての訓練も実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻み方の工夫や代替品の準備など、食べやすさの配慮を行ない、適切な摂取量の確保に努めている。水分摂取についても、好みに応じた数種類を常備すると共に、記録をつけることにより、十分な水分摂取量の確保に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	限られた空間の中で、家具や日用品の配置などで、「施設」ではなく「日常」を意識し、職員の視点での「整理整頓」を徹底するのではなく、暮らしの中での程よい雑然さを残した「生活感」を出す工夫がされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	家具や仏壇などの持ち込みについて、特に制限はなく、使い慣れた家具や日用品・写真などが持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			